

## 知事との県民対話集会（大鹿村）概要

- ・開催日時 令和5年10月11日（水） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 大鹿村交流センター ホール
- ・参加者 県民30名、熊谷大鹿村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長 他
- ・テーマ 農林業の振興（継続）について

### 【参加者】

- ・遊休農地活用生産組合の副組合長をしている。援農事業では、これまで農家の方がご自身で行ってきた田畑や家の周りの草刈りなどに依頼を受けて取り組んでいる。
- ・猛暑の中では午後は草刈りできないなど人手不足の問題がある。だんだんと農家ができなくなることが増え、これまでは収穫のみを支援していたところから、管理から生産までやってほしいという依頼も出てきた。支援者も高齢化しているという問題を抱えながら取り組んでいる状況である。

### 【参加者】

- ・同じく副組合長をしている。休耕農地を活用し、そばを栽培しているが、人手が足りず、需要に応えきれない状況がある。
- ・野菜に関しては、村は非常に小さな規模の農家が多く、農協などへの出荷も限られた人しかできていない。組合でできることは、学校給食でいかに地元の野菜を使ってもらえるかということである。子どもたちに農業との関わりを理解してもらえるか。給食の原材料を村で採れた農作物にすることにより、子どもたちと地域との関わりを密接なものにできると思う。
- ・農業を軸にしながら、その他のことも行えば生活することは可能なのではないかと思う。他の仕事を大鹿村内でつくることができればと思っている。

### 【佐々木南信州農業・農村支援センター所長】

- ・草刈りなどについては、少しでも負担なく楽に行えないかという視点がある。最近ではラジコン式の草刈り機などの導入も進んでおり、導入に当たっては、県単独補助事業もあるため、活用いただき、より安全に負担なく行っていただくことが大事であると思われる。
- ・また、人手不足については、外から担い手を確保することも重要である。管内では、地域おこし協力隊員が研修を受け、その後独立した方もいる。大鹿村の魅力や強みは何かを考え、外へ発信し、人材確保に取り組んでいければと思う。

### 【知事】

- ・人手不足の課題はどこの地域でも共通である。村出身の方が戻ってきてくれるのが一番よいのだろうと思うが、1ターン者を含め農業を守って行ける体制づくりが必要であると思う。
- ・また、特定地域づくり事業協同組合制度がある。組合で人を雇い、地域には、農林業、観光業、製造業など様々な産業があるが、例えば、自然を相手にする仕事では365日頻りに仕事がある訳ではないため、観光業が忙しいときには観光の仕事をするなど一人多役の働き方をする仕組みがある。このような制度も含めて、考えていく必要があると思う。

### 【参加者】

- ・大鹿村の林業は、全国と同様に後継者が足りないのが現状である。
- ・村には伐期を過ぎた木があらゆるところにある。里山が機能しない村は非常に衰退して見える。ここをなんとかして、里山が元気な村にしていきたいと考えている。

### 【知事】

- ・若い人たちや父母世代の方と話をすると、長野県は森があってよいが、子どもが遊べる山や私たちが入れる森が少ないということをよく言われる。そのため、森林づくり県民税の使途に人が入れる里山整備を入れたところである。
- ・まず一つは、人が入れる里山をつくろうということ。もう一つは以前から行っている信州やまほいくのフィールド整備をすること。特化型のやまほいくは園舎以外の場所で子どもたちが過ごしているので、大鹿村でもそういうことを考えてもらえるとよいのではないかと思う。
- ・長野県は林業従事者に対する支援策を今年度からかなり強化しているので、共有させていただければと思う。森林は多面的機能があるので、特用林産物や薪などの利用可能性も広げられるように考えていきたいと思っている。

**【参加者】**

- ・熊の出没が非常に多く、鹿を捕るための罠に何十頭とかかっている。罠にかかった熊を射殺することは法律で禁じられている。山の中で罠にかかった熊については、条件が整っていれば、全部でなくても捕獲できるような方策があればよいと思っている。
- ・猟師が少なくなっている。下伊那に若者ハンターズという組織があり、若い人が狩猟免許を取得し、経験をしてもらうという活動もしているが、銃の免許取得には時間がかかるといったこともある。
- ・村では20代と30代の2人を除くと全て60歳以上の人である。非常に高齢化しており、猟師の減少も悩みの種である。いろいろとご協力いただきたいと思う。

**【清水林務課長】**

- ・熊の管理計画として、人の生活域と熊の生息域をしっかりと分けていくことに取り組んでいる。第5期の熊の管理計画でも造林をしていく、その代わりに、熊にもここから先は人の生活域だということをはっきりと明確に分けていこうということ盛り込んでいる。

**【知事】**

- ・熊の捕獲等について、県としてはエリアを分けて、より速やかに対処できるような形に変えていこうと思っている。
- ・猟友会の高齢化と人数の減少については、全体に通じる話である。県もあらゆる分野の人を満遍なく確保するという事は難しいが、地域にとって本当に必要な人材、例えば、猟友会の人達がいなくなると熊の捕獲すらもできなくなるので、地域の死活問題だと思う。狩猟免許のあり方やできるだけ若い人たちが狩猟に関心を持ち、協力してもらえよう体制はしっかり確立できるように考えていきたい。

**【参加者】**

- ・里山の整備と一緒にもう少し高い山も整備してほしい。山好きの知人は、大鹿村にはたくさん山はあっても、周りの景色を見る山が少ない。木がたくさん茂っていて、登っても景色が悪いと話している。里山の整備のついでにもう少し高い山も一緒に整備すると、観光客も呼べるし、大鹿村の山は財産の一つだと思うので、そういうことを考えてほしい。
- ・大鹿村で農業に従事している人は少量多品種を栽培している人がほとんどである。村で農業に従事しているお年寄り向けに通信販売のツールをつくってほしい。自分でつくった農作物を道の駅に持っていく感覚で、センターのようなものをつくり、そこに持ち込んで、大鹿村から全国へ発送するという通信販売の道の駅のようなものが整備できればよいと思う。

**【知事】**

- ・森林づくり県民税の用途では、新たに登山道をつくって山を登っていけるような発想にはなっていない。観光的な視点も含めて考える必要があるので、ご提案として承っておきたい。
- ・通信販売の話は私もそう思う。適正な価格をつけてネットで売るといった取組がもっと柔軟にできればよいと思う。そういうことは県がやるのがよいのか、市町村や組合などでやっていただいて県が補助金を出すのがよいか分からないが、少なくとも販路をどう広げるかの一つとして、しっかり施策の中に入れて考えていくことは重要だと思う。

**【参加者】**

- ・長野県は宇宙県ということで、光害の防止を熱心に進めていると聞いており、私もいろいろと協力させてもらっている。長野県は空がとてもきれいなので、山の頂上で星を見るということも素敵なことであると思う。長野県は宇宙県のバックアップもよろしくお願いしたい。

**【知事】**

- ・展望台や観測所が長野県にはたくさんあるので、宇宙県としてきれいな星空を守れるように取り組んでいきたい。